

【秀句鑑賞】

遠き地の企業戦士や寒気団 明美

一読すると、今回のアルジェリアのテロ事件で犠牲になった派遣社員を題材とした一過性の時事俳句のように受け取られ勝ちであるが、必ずしもそうではない。

資源小国で貿易立国を目指す他ない日本は、世界各地に出かけて商品やサービスを数多く売り込み、エネルギー資源の開発に深くコミットしなければならぬ。過去にも少なからずの現地駐在員が身代金誘拐事件のターゲットになっていく。国内の安穏とした我々の生活は、遠い外国の地で日々奮闘している企業戦士の犠牲の上に成り立っているものと言えよう。

そういう意味で、この句は普遍的なものであり、時の経過によって色褪せるものではない。「寒気団」を下五に据えたことよって、句が単なる時事の上滑りの紹介に終ることを防ぎ、引き締まったものとしている。

【秀句鑑賞】

一筆の大きな元気年賀状 幸

「一筆」には「ひとふで」とルビが振ってある。年賀状に一筆書きの文字が書かれていたのであるか。「大きな」は通常の語法に従えば、直下の「元気」を修飾する形容詞であって「一筆」を形容するものではない。どのような文字かは知る由もないが、作者はひと筆の文字から大きな元気を貰ったのである。

一筆を形容するのであれば、「一筆の大きく」となるが、大きな一筆書きの文字から元気を授かったとする句では、平凡な句となる。

【自句自解】

初空や屋根なしバスの予約席 守

例年になく寒冷的な正月の空の下を観覧用の屋根なしバスが、浅草雷門とスカイツリーを結んでいる。「予約席」とあるので、予約の席確保に成功して、現実はそのバスの席に座っているような句立てになっている。しかし実際は、作者の子と孫は、予約席のゲットに失敗した。「予約席取れば良かったのに」とぼやきながら、普通の屋根付きバスで移動したとのこと。屋根なしバスに乗れたとすれば、「ああ寒かった」との別の呟きがFACE BOOKに流れたかも。

【秀句鑑賞】

買初めの日本地図帳島さがす 秀一

時節柄、読者は尖閣列島や竹島の位置を探したものと思うのであるが、それらの島の所在地はニュース報道によつてあらまし知られている。それでも作者は買初めの日本地図を開いて、それらが今年も日本の領土に含まれていることを確認したのであろう。

しかし、作者は島の具体的名前を言わないことよって、読者の想像の幅が広がる効果を考えたのかも知れない。探した島は、作者がこれから訪れてみたい無人島や釣りの穴場の離れ小島かも知れない。一見時事俳句で

あるような素振りして、実はそうではないのかも。

【秀句鑑賞】

寒の入しつかり歩むこと始む

真三

一年の計は元旦にあるとして、元日に何らかの決意表明をしたとの句はよく見かけるけれども、作者は寒の入（今年是新暦1月5日）に「しつかり歩むこと」を決意したのである。元日より少しずらせたことに、作者の肩に力を入れない生き方、余裕を持った生き方を感じ取ることができている。この「しつかり歩む」には、転ばないように歩行するという動作以外に、人生を堅実に生きようとする作者の揺るぎない意思を感じる。

【秀句鑑賞】

挨拶の言葉覚えし年始の児

友子

繰り返して覚えて来た挨拶の口上を忘れてはならじと、玄関口でたどたどしく、少しはしよりながら一所懸命に述べる児の姿が微笑ましい。その児は、それから開かれた新年の宴の中心であったであろう。ほっとする一句である。

【秀句鑑賞】

制服は和服と決めしか成人式

溪水

高度成長期に全国各地に広まった女性参加者の振袖姿は、長期デフレに喘ぐ昨今も相変らぬ成人の日の情景である。男性参加者の羽織袴姿も珍しくない。作者はこのような情景を眺めて、少しばかりの溜め息まじりに掲句を詠まれたのであろう。俳味のある一句である。

「制服」という言葉を用いたのは、永年教職に在られた作者ならではことであろう。一般的な句立てにすれば、「制服」は「式服」と言い換えるのであろうが、「制服」を着用者の自由意思によって決まったものではなくて、外部の意思によって強制的に決められたものとすれば、「制服」と規定したことが効いており、諧謔味が増している。

【秀句鑑賞】

初日影社の屋根に大樹這ふ

ツル子

初日の光が杜の中の社をくまなく照らし、社殿の脇に聳えている大木の影が社殿の屋根を這っているように見えたと言っているのである。荘厳な初日の中にたつ神社と大樹の位置関係を、初日の光によって生み出された大樹の影を媒介として表したのである。

この状況に出逢った作者は「這う」という言葉を得たのであるから、これにこだわれば、「初日影社の屋根を這ふ大樹」とすることもできる。また、神社の屋根より高い大樹があつて、その影が屋根の全部または一部を覆っているとすれば、樹種を具体的に言つて、「初日影社を覆ふ楠大樹」とすることもできる。楠は、松や杉に置き換えることもできる。

【秀句鑑賞】

大寒や蘇鉄に布の巻かれをり

ヤエ子

菰巻という季語を用いて別の句立てにすることもできたが、作者は大寒の日（今年の新暦1月20日）に出逢った蘇鉄の布に着目し、大寒の冷気の中に屹立する蘇鉄を真正面から詠んだ。その蘇鉄が高さのある大振りのものであるほど、大寒という時候がより直截にひしと感じられる。

（文責 代表 増田 守）

事務局より

* 二月は恒例により定例会句会はありません。

* 三月と四月の各定例会句会は、同封の案内資料の通り二俣川で行ないます。

* 句会報のタイトル図案の募集

十二月例会の句会報のタイトルとして、以前発行した会誌報の題字をパソコン編集して試しに使用してみました。あまり見栄えしません。そこでこの際、新規に作成したいものと思えます。

絵心のある方にその図案をご提案いただければと思います。